



## みどころ

昔から「ミュージカル大好き人間」の私は、アメリカに存在する“シアター・キャンプ”の実態にビックリ！こりゃ、羨ましい！しかし、10周年を迎えて、創業者のジョーンが突然倒れてしまうと・・・？

芸術と経営の両立は難しい。起業家の息子がジョーンの後を継ぐと、その経営は？ひょっとして買収のターゲットに？銀行による差押えの対象に？

そんな苦境を切り抜ける唯一の方策は、感動的なミュージカルを投資家に披露し、新規の投資を獲得すること。シアター・キャンプの卒業生4人の共同脚本と、2人の共同監督による本作の“モキュメンタリー”ぶりをしっかり味わいながら、フィナーレの感動を共有したい。

## ■□■シアター・キャンプとは？ビジネスモデルは？経営は？■□■

アメリカの学校も日本と同じように夏休みがあるが、アメリカの夏休みには、子供たちのためのスポーツ、サイエンス、美術、演劇、音楽等のさまざまなキャンププログラムが用意されているらしい。演劇に特化したキャンプはポピュラーで、中でも本作のように、歌やダンスを学ぶミュージカル系は人気らしい。それに対して、日本のミュージカル界は東宝路線も劇団四季路線もそれなりに維持できているようだが、アメリカのようなシアター・キャンプは存在しない。その根本原因は、そういう方面に金を出す出資者がいないためだ。アメリカはそうではないようだが、そのビジネスモデルが確立しているわけではないから、その経営が難しいのは当然だ。本作冒頭にみるシアター・キャンプへの参加者選抜の姿を見ると、一種の“金持ち優遇策”(?)も・・・。

しかして、本作冒頭に登場するのは、ニューヨーク州北部の緑豊かな湖畔に佇むシアター・スクール、アディロンド・アクトの風景だ。アディロンド・アクトでは、今年の夏も

10 周年のキャンプ開講の準備が順調に進められてきたが、開講直前に不屈の精神の持ち主で人々から愛されている校長のジョーン（エイミー・セダリス）が突然倒れ、昏睡状態に陥ってしまったから大変だ。そんな状況下、演劇には無関心ながら、起業家としてビジネス界では有名（？）な一人息子のトロイ（ジミー・タトロ）が経営のトップの座に就くことに。しかし、彼が調べてみると、アディロンド・アクトの内情は“火の車”だったから、アレレ……。もっとも、そんな実情であることは、誰がどう考えても当然のことだと思うのだが……。

## ■□■4 人の卒業生の協力による共同監督と共同脚本に拍手！■□■

本作はモリー・ゴードンとニック・リーバーマンの共同監督によるもの。本作の脚本はモリー・ゴードンとニック・リーバーマンの他に、ベン・プラットとノア・ガルヴィンを加えた 4 人の協力によるものだ。なぜそんなことができたのかというと、それは、この 4 人は全員がシアター・キャンプの卒業生だから、ということだ。

アディロンド・アクトの経営は、今や全く意識不明状態になってしまったジョーンが全てを担っていたが、アディロンド・アクトのミュージカルを作り上げていく責任者は、レベッカ・ダイアン（モリー・ゴードン）とエイモス・クロプチャー（ベン・プラット）。この 2 人はシアター・キャンプを卒業した後、ジュリアード音楽院に入ろうとしていたが、それを蹴って（？）、今は子供たちにミュージカルを教えるアディロンド・アクトの鬼教師になっているらしい。

今年の開講式にはジョーンの代わりにトロイが経営者として乗り込み、今、訓示を垂れようとしていたが、子供たちは総スカン！しかし、レベッカとエイモスがシアター・キャンプにふさわしい開講式の盛り上げ方を見せると、たちまち子供たちは見事な統制を！これはすごい。ミュージカルの大好きな私は、この開講式のシークエンスを見ただけで、以降の期待が高まっていくことに。

本作のチラシには、「全米が、世界が笑い、涙する」「アメリカ・エンタメ界最高の才能が集結！」「最高にハッピーな奇跡の 1 時間 35 分！！」の文字が躍っている。ちなみに、「モキュメンタリー」という言葉があるそうだが、あなたはそれを知ってる？それは、mock（擬似）とドキュメンタリーを合わせた造語で、ドキュメンタリーに見せかけたフィクション作品のことだが、本作はそのモキュメンタリー映画？それは、本作導入部から始まる、ある意味でハチャメチャな大人たちと子供たちが織り成していくミュージカル仕立て（？）のストーリー展開を見的过程中で、各自がしっかり判断したい。本作のような企画を 4 人の卒業生の協力による共同監督と共同脚本で完成させたことに拍手！

## ■□■芸術と経営の両立は？投資家の判断は？差押えの危機は■□■

日本の映画界では、21 世紀に入ってから名画座系ミニシアターの閉鎖と、シネコンの隆盛が続いている。それは、映画産業を経済的に成り立たせるために止むを得ない面もあるが、要するに、芸術と経営の両立は難しいということだ。トロイがアディロンド・アクト

の財務状況を経営者の感覚で調べたところ、アディロンド・アクトはまさに倒産寸前！？中国では不動産会社大手の「恒大産業」（恒大グループ）の経営危機が伝えられた後、しばらくして、同社の債務不履行と同社総帥の“拘束”が報じられたが、ひょっとしてアディロンド・アクトもそんな事態に？

そこで、トロイが“新たな投資者”ともくろんだのが金融コンサルタントのキャロライン・クラウス（パティ・ハリソン）だが、彼女はトロイ以上にしたたかな目でその経営状態を見ていたらしい。つまり、彼女の狙いは、倒産寸前のアディロンド・アクトを（安価で）買収することだったから、アレレ……。期限が迫る債務を支払えなければ銀行による差押えは必至。そうなれば、シアター・キャンプでのミュージカル上映など吹っ飛んでしまうこと確実だ。それを回避するための方法は、ただ 1 つ。キャロラインに代わる新たな投資者を探すこと。その投資者の前で、最高のミュージカルを披露すれば、アディロンド・アクトの再生は可能かも？いや、それが唯一の残された方法だ。

それまで経営のことなど眼中になかったレベッカとエイモスも、今やそれを前提にラストスパートをかけるしかなかったが、残された期間はわずか。レベッカが完成させると約束したフィナーレの曲も未完成の中、また、あれほど仲の良かった 2 人の仲にもひびが入ってくる中、果たして、新作ミュージカルを完成させることはできるのだろうか？

## ■完成作のタイトルは？出来は？鑑賞者は？■

アディロンド・アクト 10 周年の出し物のタイトルは『JOAN,STILL（ジョーンのままで）』。つまり、アディロンド・アクトを創設し、今日までの繁栄を築き上げた創業者ジョーンのサクセスストーリーだ。そんな設定のミュージカルは、往々にしてつまらない“伝記モノ”になってしまう恐れがある。また、上演に向けて、レベッカとエイモスの共同作業が順調に済まなかった原因は、レベッカがアディロンド・アクトの教師を辞めて“アクター”としての活動を開始すると決めたためだと分かったから、レベッカとエイモスの仲が険悪になってしまったのも仕方ない。その上、レベッカが完成させると約束していたフィナーレの曲は前日の通し稽古の際にも完成していなかったから、これは到底、投資家感激させるような最高のミュージカルの上演は不可能だ。本作を鑑賞している観客は誰もがそう思ったはずだが、本作ラストに見るミュージカル『JOAN,STILL』の出来は？

普通のミュージカルは 2 時間程度だが、本作ラストでは、それを 15 分程度に圧縮しているので、ミュージカル『JOAN,STILL』の前半と中盤はごく一部しか見せてくれない。しかし、レベッカが一晩で完成させたフィナーレの曲に入ると、その素晴らしさにビックリ！一気に目がテンに！前日に即興で作った、ふざけたような歌詞とメロディーが、1 日経つとこんなに素晴らしいミュージカルのフィナーレになるとは！？

これには観客席も大興奮だ。もちろん、観客席に座っていた新たな投資家たちも本作を絶賛し、投資を OK してくれたから、今後のアディロンド・アクトの経営は安泰になったとさ！めでたし！めでたし！

2023（令和 5）年 10 月 20 日記